

令和5年度外部評価報告書



国立大学法人埼玉大学外部評価委員会
令和6年3月

目次

I. 総括評価	・ ・ ・ P. 1
II. 項目別評価	・ ・ ・ P. 2
III. 外部評価委員名簿	・ ・ ・ P. 9
IV. 外部評価委員の活動状況等	・ ・ ・ P. 10
V. 外部評価委員会実施要領	・ ・ ・ P. 11

I. 総括評価

外部評価委員会

委員長 伊藤 博明

埼玉大学は基本方針として「知の府としての普遍的な役割を果たす」、「現代が抱える課題の解決を図る」、「国際社会に貢献する」を掲げ、国立大学が法人化された平成16年度から令和3年度までの3期に渡る中期目標期間を通して、教育、研究、社会貢献への機能強化を行っている。今までの取組を基盤として、令和4年度から始まる第4期中期目標期間に合わせて更なる機能強化のための中期計画を作成しその実現に向けて取り組んでいる。

本委員会は、学長から提供された第4期中期目標期間の初年度にあたる「令和4年度計画自己評価書」をもとに、教育、研究、社会貢献・国際交流、大学運営の分野について、「年度計画自己点検・評価結果の妥当性」「中期目標・中期計画の達成に向けた年度計画の進捗状況」の検証及び評価を各委員の担当分野において実施した。

令和5年11月6日に行われた第1回委員会では、学長から各委員が事前に送付した令和4年度計画に関する質問に対する回答及び令和4年度に埼玉大学が実施した取組の内容について説明があった。これらの内容を踏まえ、各委員から意見を求め、それをもとに総括評価、項目別評価を行った。

埼玉大学は全体的に、極めて熱心に教育研究活動等に取り組んでいる。各委員より項目別に提出された評価をもとに、委員相互で意見交換を行った結果、以下の各事項の評価から判断して、総合的に「目的の達成状況がおおむね良好である」ことを本委員会として決定した。

本評価結果を受け、埼玉大学が努力を重ね、さらに発展することを期待する。

〈教育に関する事項〉

○ 少人数制アクティブ・ラーニング科目の開設

基盤科目の科目群の編成を見直し、一つのキャンパスに5学部が存在する埼玉大学の利点を活かした、少人数制のアクティブ・ラーニングの科目群を新たに開設しており、目標値の15科目を大幅に上回る36科目を開講していること。(計画番号3-3-1)

〈研究に関する事項〉

○ 戦略的研究領域における活動の成果

全ての研究領域において外部資金(科学研究費、受託研究費等)を多数獲得し、研究成果を論文、書籍等で多数発表し、特許申請も含め、成果の社会還元、社会実装への期待も大きく、いずれも目標値を上回っていること。(計画番号7-2-1)

II. 項目別評価

1. 教育に関する事項

【特筆すべき点】

- 埼玉県知事と学生の継続的な意見交換会
埼玉県知事との意見交換会を継続的に行い、学生からの政策提言が埼玉県により毎年事業化されており、今年度は目標値の1件を上回る2件（「アスリート就職サポートセンターによるキャリア支援」「消防団入団応募窓口のデジタル化」）が事業化されており、事業化に繋がらなかった提言も、提言作成までのプロセスで学生が学ぶことは多く、教育的効果は大きい。（計画番号 1-1-2）
- 少人数制アクティブ・ラーニング科目の開設
基盤科目の科目群の編成を見直し、一つのキャンパスに5学部が存在する埼玉大学の利点を活かした、少人数制のアクティブ・ラーニングの科目群を新たに開設しており、目標値の15科目を大幅に上回る36科目を開講している。少人数制のアクティブ・ラーニングを充実させたことは、学生の満足度も高まることが期待できる。（計画番号 3-3-1）
- 大学院における社会人リカレント教育の促進
リカレント教育推進セミナーの実施や広報活動に積極的に取り組んだ結果、大学院人文社会科学部博士前期課程における社会人入学生数が目標値の1.5倍となる15名が入学している。また同課程学位授与者として社会人学生が11名であり、大学院における社会人リカレント教育の促進に資している。（計画番号 4-2-1）

【注目すべき点】

- 課題解決プロジェクトの新たな展開
課題解決型プログラムの課題解決プロジェクトについて、コロナ禍にあっても、実施方法、プログラム内容等に工夫をすることによって参加企業数が増加し、目標値の6社を超える13社が参加している。（計画番号 1-1-2）

【遅れている点】

- SNSによる効果的な情報発信
SNSを活用して留学生（卒業生・修了生）のネットワークの構築と情報発信について実施されていない。これは海外からの受験生の確保だけではなく、就職先の開拓にも繋がる重要な取組であることから改善に期待したい。（計画番号 5-3-1）

【外部評価委員からの意見（提言）】

- FD・SD研修会の参加率向上について

FD・SD 研修会の授業担当教員の参加率を上げるためには、教授会と連動させる、あるいは教授会に組み込ませるなどの方策が考えられる。またオンデマンド配信の活用についても検討すべきである。

○ 社会人学生に対するサポートの充実

社会人学生については、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行とともに、コロナ禍以前の働き方に戻りつつあり、本務との両立が困難になっている。社会人学生の確保は、埼玉大学に限らずどこの大学においても難しい。さらに日本においては、まだまだリカレント教育への理解が企業や社会において進んでおらず、難しい側面がある。中央教育審議会においても話題として取り上げられているように、リカレント教育、リスキリングにおける大学の役割は高まっていることから、埼玉大学として、社会人に向けての強いメッセージの発信やサポート体制の充実をさらに期待したい。

【その他の意見】

○ 海外留学派遣者の増加

海外留学派遣者数が、コロナ禍にあっても、目標値の100名を大幅に上回る206名を達成している。また、新規の協定校としてグリフィス大学（オーストラリア）の付属語学学校への語学研修プログラムを企画、実施している。今後も積極的な取組を期待したい。（計画番号5-1-1）

2. 研究に関する事項

【特筆すべき点】

- 戦略的研究領域における活動の成果

全ての研究領域において外部資金（科学研究費、受託研究費等）を多数獲得し、研究成果を論文、書籍等で多数発表し、特許申請も含め、成果の社会還元、社会実装への期待も大きく、いずれも目標値を上回っている。特に、X線・光赤外線宇宙物理研究領域、健康科学研究領域で論文数が多くなっている。

また、進化分子デザイン研究領域では、「天然ゴム合成に中心的な役割を果たす酵素サブユニットの同定」などこれからの応用展開や社会還元・社会実装が期待できる取り組みや、バイオイメージングの手法での「オジギソウの葉が閉じるメカニズムの解明研究」などユニークでアピール力の高い取り組みは子どもたちの科学への関心を引き出す研究として評価できる。（計画番号 7-2-1）

【注目すべき点】

- 社会変革研究センターの設置

令和5年度設置の計画を前倒しして、令和4年度中に社会変革研究センターを設立した。電力発生・変換・制御関連プロジェクトでCO₂の排出削減を図るだけでなく、CO₂削減・回収・再資源化プロジェクトですでに排出されてしまったCO₂の回収・資源化を目指す取り組みが行われており、今後、研究成果の社会実装に大いに期待したい。（計画番号 8-1-1）

【遅れている点】

- 著書数、論文数、科研費受入件数

目標値を達成した研究科もあるが、著書数では理工学研究科が、論文数では人文社会科学研究科及び教育学部が目標値に達していない。とはいえ研究成果の発表の場として、文系は論文よりも著書が、理系は著書よりも論文が多い傾向は理解できる。

また、科研費受入件数は目標値に対して達成率は9割強であった。応募件数の減少にも関わらず、採択件数はほぼ横ばいであるが採択率は上昇していることから、今後は科研費応募者の掘り起こしに期待したい。（計画番号 7-1-1）

【外部評価委員からの意見（提言）】

- 女性教員比率について

女性教員比率は分野によって大きく差があるが、どの分野においても学部学生の女性比率に比べ、教員を目指す上で必須となる大学院進学において博士前期、後期課程と進学するにつれ女性比率が低下するなどの問題点が根底にある。女性教員比率の向上は、長い期間を通じて取り組んでいく課題と捉えて、様々な取り組みの実施状況に加

え、それらの成果を、例えば関係者の満足度など多角的な視点での評価も加えた方が、取り組みへのモチベーションも上がるのではないかと。

また教員ポストには限りがあり、優秀な女性研究者でも埼玉大学では採用・昇任の機会に恵まれず、他の研究機関へ転出する場合もあるかもしれない。現時点での在職者で比率を云々するだけでなく、他大学や研究機関への女性研究者輩出も含め、業界全体への貢献を評価しても良いのではないかと。

【その他の意見】

特になし

3. 社会貢献・国際交流に関する事項

【特筆すべき点】

・国際交流

○ 国際交流の推進

コロナ禍で大きく落ち込んでいた、海外派遣留学者数がコロナ禍前の水準に戻りつつあるのは、更なる国際化促進への足掛かりになった。また、理工学研究科においては新たなプログラムが計画されており、大学を挙げての留学者数増加への様々な取り組みについては高く評価する。(計画番号 5-3-1)

・社会貢献

○ ダイバーシティ教育の実践

附属4校園のつながりを生かしたダイバーシティ教育が実践され、その知見が教育学部をはじめとする各学部の教育や大学運営全般にフィードバックされていることは高く評価できる。(計画番号 10-1-1)

【注目すべき点】

特になし

【遅れている点】

・国際交流

○ オンライン教育のさらなる進化

移動を伴わない国際化ツールとしてのオンライン教育をさらに進化させる必要があると考える。対面、オンデマンド、オンラインだからこそできる教育手法を研究し、学生、教員ともに海外との教育、研究、交流が日常化するような、通信インフラの充実とその教育方法の進化を促進すべきと考える。(計画番号 5-2-1)

・社会貢献

○ 「障がい学生支援室」の開設

「障がい学生支援室」の開設は大きな前進と受け止めるが、その内容に関してはまだ途上であり、さらなるスピードアップと内容の充実が求められる。当該の学生はもとより、「障がい学生」と日常的にどう向き合うのか、学生及び教職員への理解と働きかけをお願いしたい。(計画番号 6-1-1)

【外部評価委員からの意見（提言）】

・国際交流

○ 国際性の向上について

国際交流において、埼玉大学で学ぶ海外からの留学生や教員の満足度を高めることは、将来の国際性向上のために欠かせない課題であると考えます。埼玉大学ではいくつもの先進的な取り組みが進んでいるが近隣大学やさいたま市など地域との交流の機会を積極的に提供するなどして、地域の国際化ハブとなる機能を集積してもらいたい。特に外国語による授業を行っている近隣大学との単位交換などを更に進めてほしい。

○ 留学を希望する学生への支援策について

円安や諸物価高騰により、留学を希望する学生が経済的な理由から留学を諦めてしまわないか、強い懸念を感じている。大学としてはこうした経済的な課題を抱えた学生の意思をくみ取り、実現に向けた支援策を講じる必要があると考えます。

一方で、円安のメリットが生じている海外からの留学生に関しては、受け入れる国や地域をさらに広げて、埼玉大学の魅力を打ち出し、より多様で国際的な教育機関としての魅力度を高める必要がある。

・社会貢献

○ 附属中学校生徒会での新たな制服のあり方についての検討

附属中学校の生徒会で制服のあり方を検討し、女子スラックスを導入したほか、男女共通の新たな制服を検討している点に注目する。大学においても全ての現場で、こうしたテーマを話し合う場を作ることで、アンコンシャスバイアスを排除する取り組みが生まれることを期待したい。

○ 地域に開かれた大学について

地域に開かれた大学を目指していく中で、世代を越えた交流が新たな学びに繋がることもあるため、埼玉大学のダイバーシティ構想の中に地域の高齢者にも目を向けた取り組みや工夫を更に増やしてほしい。

【その他の意見】

特になし

4. 大学運営等に関する事項

【特筆すべき点】

- 効果的な資金運用
資金状況を適確に把握した上で、安全性を重視しつつ、金利状況及び金融市場を分析しながら効果的な資金運用を行っており、既に中期計画の目標値を達成している。(計画番号 13-3-2)
- ICT 環境の整備による効果
業務用スマートフォン及びモバイル PC を導入するなど ICT 環境の整備を実施したことにより、業務の利便性や安全性が向上し、積極的に在宅勤務を取得する職員が増え、目標値を達成している。(計画番号 15-1-1)

【注目すべき点】

- 寄附金受入件数の増加
埼玉大学基金は評価指標である「寄附金受入件数」の目標値 165 件に対して 181 件と目標を達成している。
また、多様なステークホルダーへの広報誌、公開講座等各種イベント案内の郵送や企業訪問等に加え、リサイクル募金の存在をアピールするためウェブサイトのリニューアル、現物資産(有価証券、不動産等)による受入れの間口を広げるため「埼玉大学現物資産寄付活用基金」の設置など新たな取組を実施している。(計画番号 13-2-1)

【遅れている点】

特になし

【外部評価委員からの意見(提言)】

- 大学運営等について
第 4 期中期目標期間の初年度として「埼玉大学 Action plan2022 - 2027」に取り組み全体としては順調にスタートしたと思われる。個々の目標においては、評価指標に達しない項目の見直しや今後の取組に注力すると共に、達成した項目はさらに掘り下げてより高い目標を設定して頂きたい。

【その他の意見】

特になし

Ⅲ. 外部評価委員名簿

任期：令和4年12月1日

～令和6年3月31日

令和5年12月25日現在

氏名	所属・職名	担当事項	※区分
伊藤 博明	専修大学教授	教育に関する事項	(1)
小川 秀樹	株式会社埼玉新聞社相談役	社会貢献・国際交流に関する事項	(3)
利根 忠博	埼玉経済同友会特別幹事	大学運営等に関する事項	(4)
萩原 なつ子	国立女性教育会館理事長	教育に関する事項 研究に関する事項	(1) (2)
村井 美代	埼玉県立大学教授	研究に関する事項	(2)

※区分

- (1) 教育分野で高い識見を有する者
- (2) 研究分野で高い識見を有する者
- (3) 社会貢献・国際交流の発展に関して高い識見を有する者
- (4) 大学運営に関して高い識見を有する者
- (5) その他学長が必要と認める者

IV. 外部評価委員の活動状況等

年 月 日	事項	内容
令和5年11月6日(月)	第1回外部評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度計画実施状況について 令和5年度外部評価(令和4年度評価)について
令和5年12月1日(金)	項目別評価等、意見等の提出	各委員から項目別評価、意見等の提出
令和5年12月中旬	外部評価報告書(案)の送付 (事務局 → 各委員)	項目別評価、意見等を集約し、外部評価報告書(案)を作成・送付
令和5年12月25日(月)	第2回外部評価委員会	令和5年度外部評価報告書(案)の審議
	外部評価結果の報告	学長へ外部評価報告書提出
令和6年3月	外部評価報告書の公表	大学ホームページにて公表

V. 外部評価委員会実施要領

国立大学法人埼玉大学外部評価実施要領

大学評価委員会

令和4年10月13日

1. 外部評価の目的

この要領は、国立大学法人埼玉大学大学評価規則第6条及び国立大学法人埼玉大学評価実施細則第7条の規則に基づき、本学の教育、研究、社会貢献・国際交流、大学運営等（以下「教育研究等」という。）の状況について、自己点検・評価結果の客観性・適切性を確保するために学外有識者による評価を行い、その意見を反映させ、教育研究等の水準向上、改善に資することを目的とする。

2. 外部評価の対象

年度計画評価に関する本学の自己点検・評価結果

3. 評価実施方法

外部評価委員会は、年度計画評価書に基づき、自己点検・評価が着実に進められているかを確認するとともに、各年度計画の進捗状況を確認し、以下により中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況の総合的な評価を行う。

- (1) 評価項目及び基本的な観点、特記事項は別紙に基づき、行う。
- (2) 年度計画評価書を基に、必要に応じて聴取等を行い、取組内容について調査・分析を行う。調査・分析結果を踏まえ「特筆すべき点」、「注目すべき点」、「遅れている点」を評価項目毎に抽出する。
- (3) 委員長は、各委員の調査・分析結果を「外部評価報告書」として取りまとめ、学長へ提出する。

4. 外部評価スケジュール

外部評価は、原則として、以下のスケジュールにより実施する。

- 10月 年度計画評価書受理。報告書に基づき調査・分析を行う。
- 11月 調査・分析結果の審議（外部評価報告書の作成）を行う。
- 12月 外部評価結果（外部評価報告書）の報告を学長へ行う。

5. 外部評価結果の公表

外部評価報告書は、本学ホームページに公表する。

(別紙)

評価項目及び基本的な観点

評価項目	基本的な観点
1. 教育に関する事項	(1) 中期目標・中期計画の達成に向けた年度計画が進行しているか。 (2) 年度計画に設定した評価指標が当該年度の目指す水準に達しているか。 (3) 年度計画及び評価指標の達成水準の設定が妥当かどうか。
2. 研究に関する事項	
3. 社会貢献・国際交流に関する事項	
4. 大学運営等に関する事項	

特記事項

評定	判断基準
特筆すべき点	(1) 優れた点や強み・特色が発揮されている点が認められ、かつ、成果が確認できる。 (2) 他法人のモデルになり得る先進性・先駆性が認められる。
注目すべき点	(1) それぞれの個性を踏まえたユニークな取組であると判断するものや、結果的に十分な成果は出ていなくても、先進的な取組であると判断するもの。
遅れている点	(1) 年度計画を未達成のもの、又は、中期目標・中期計画と照らして、なお改善を要すると判断するもの。